

# ハンセン病考える契機に

瀬戸内市・長島の国立ハンセン病療養所、長島愛生園に入所する金泰九さん(88)と18年前から交流を続けている福山市の盛進中学・高校の生徒たちを通して人権問題を考える教育映画「こんにちば金泰九さんーハンセン病問題から学んだこと」が完成し、2日、同園で上映会が開かれた。

映画は東京の映学社が法務省の協力で製作。2013年に同省の作文コンテストで法務大臣賞を受賞した同校ヒューマンライツ部3年後藤泉稀さん(14)の作文を軸に、ハンセン病の歴史などを交え25分にまとめた。

映画で後藤さんは、ハンセン病患者を市民が差別し隔離していった経緯から現在のいじめの問題に

## 完成映画描いた交流

と生高さん・金さん・愛生園・長島  
福山・盈進中

言及。「自分にも友達にもノーと言える勇氣を持ちたい」と訴えた。耳が不自由な卒業生濱田真由美さん(34)が金さんとの出会いで前向



映画上映後、金さん(前列左から3人目)と話す後藤さん(同2人目)ら

きに生きるようになったことも紹介している。

この日は、同部の生徒と入所者ら計約30人が鑑賞。上映後、金さんは「若い人たちが映画を見て、ハンセン病回復者が病気を隠さなくていい社会をつくってほしい」と感想を述べた。

映画は文部科学省選定作品として全国の市町村教委などに販売、学校や生涯教育に活用されるほか、英語版も作り、海外の映画祭に出品することも計画している。

後藤さんは「金さんの言葉一つ一つに、ハンセン病を正しく知り伝えてほしいとの強い思いを感じた。自分と同じ世代の人たちが、この問題に関心を持つきっかけになれば」と話した。

映画の問い合わせは映学社(03-33359-9729)。

(阿部光希)